

家族の一員である犬や猫。少しでも長生きしてほしいですよね。ここ数年、動物の健康診断がずいぶんと広まり、飼い主の意識の高さがうかがえます。

一方、高齢化した動物をどう支えるのか、「介護」の問題もしっかりと考えなければなりません。

犬や猫は、7歳になるとシニア期に入ります。人間でいうと40歳くらいの年齢です。この時期からは、定期的に健康診断を受け、病気の早期発見に努めることが望ましいです。病気は初期に発見できれば治る可能性が高まるからです。

犬や猫も老化によって足腰



犬や猫の介護問題

が弱くなります。次第に、自力で歩けなくなったり、トイレがうまくできなくなったりし、日常生活に支障が出てきます。寝たきりになってしまうと、床ずれを防ぐため、数時間おきに体位を変える必要もでてきます。

こうした状況になると、飼い主は昼夜を問わず、注意を払わなければならなくなります。買い物や仕事に行くこともままならず、体力的にも、精神的にも追い込まれてしまう飼い主もいます。

ただ、最近は支援サービスが充実してきました。愛情を

もって介護を続けるためには、飼い主にも心の余裕が必要です。老犬介護サービスを利用して一時的に預けたり、動物専門の介護ヘルパーに自宅に来てもらったりして、一人で悩みを抱え込まないようにしましょう。また、かかりつけの獣医師に相談し、適切なアドバイスをもらうのもいいですね。

避けては通れない老化という将来を見据え、家族で介護について考えておくことをお勧めします。

(アニコム損害保険
獣医師 杉浦弘明)